

平成26年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：環境中に放出された放射能に関する研究 英文：Evaluation of the erupted radioactivities into the environment.
研究代表者	大橋 英雄（東京海洋大学）
参加研究者	鈴木 芙美恵（東京海洋大） 荒川 久幸（東京海洋大学） 松本 陽（東京海洋大学） 明瀬 太志（東京海洋大学）
研究成果概要	<p>1. はじめに</p> <p>2011年3月11日に発生した東日本大震災により引き起こされた福島第一原子力発電所の事故で、環境中に少なからぬ量の放射性物質が放出された。これらのうち、降雨・大気・土壌・海水中・海中生物に含まれる放射能を、なるべく多くの地点で定期的にサンプリングを行い計測していくことは、研究者間のみならず社会的にも必要であると考えられる。</p> <p>福島第一原子力発電所の事故によって海洋生物に分布した^{110m}Ag濃度およびその経時的な変化を明らかにする。</p> <p>2. 方法</p> <p>・いわき沿岸において、数か月おきに種々の海洋生物、海底粒子および海水を採取し、その放射能を測定している。試料は乾燥させ、測定試料とした。</p> <p>3. 結果</p> <p>・無脊椎動物および海藻を乾燥し、裁断し、U8容器に充填して、長時間計測し、定量した。2014年5月において、いくつかの種類海藻では^{110m}Agが検出された。それぞれの濃度は次第に低下傾向にあった。</p>
整理番号	I05